

## 本校生徒の読書傾向とその動態

### 図 書 部

畑 実・中尾正三・中野満男

福中康子・渡辺貞夫

#### I はじめに

読書週間行事の一つとして本校図書館では11月1日に全校生徒の読書調査を行った。読書が人間形成に果たす役割は大きく、なかんづく青少年期のそれは重要な意味をもっている。近時、学校図書館の充実が全国的に行われているのも故なきにあらずである。この調査により本校の図書館を有効に運用したいこと、更に読書指導の手がかりを作り今後強力に読書指導をおし進めたい、大体かかる意図から調査を実施したわけである。本調査を実施していろいろ不備な点もわかったことであり、これはあくまで予備調査的なものと考えている。これを手がかりとして次に完全なものとした。従って以下述べることは必ずしも正しいとはいえない。しかし折角調査したことであるので一応分析して大体のところを述べることにした。

#### II 分 析

##### 1. 毎月買っている雑誌名

イ 中学では「中学時代」が圧倒的に多く、ついで「中学コース」更に男子では「子供の科学」女子では「女学生の友」、男女を通じて英語雑誌、「リーダーズダイジェスト」がそれについている。

ロ 高校では「高校時代」が圧倒的に多く、ついで「高校コース」「螢雪時代」である。

ハ 中学では58%、高校では48%の生徒が自分で雑誌を購入している。中学、高校の雑誌名は全国的な傾向と大体一致している。

##### 2. 一カ月の小遣いはいくらか。そのうち本代はどのくらいか。

小遣いの解釈がどうも徹底しなかった向きもあるが500円までが一番多い。そのうち本代は21～50%をあてている者が多い。これはずばり何円と

イ 一カ月の小遣い

学年	金額	0～500円	501～700	701～1000	1001～	不明	計
中一男		18	15	4	8	5	50
女		21	11	5	5	11	53
中二男		21	18	4	10	6	59
女		9	17	6	10	4	46
中三男		17	10	15	0	7	49
女		18	2	15	4	9	48
高一男		23	6	16	5	7	57
女		6	11	11	2	10	40
高二男		19	7	19	12	5	62
女		7	6	1	18	0	32
高三男		3	10	4	9	11	37
女		1	0	4	8	11	24
合計		163	113	104	91	86	557

書かせばよかったと思う。全国的には200～300円が平均らしい。

##### 3. 家庭にある辞書・事典・全集類

この項目は頭の中で思い出して書いたもので確実なものとはいえない。たゞ辞書・事典・年鑑等はあまり持っていないので図書館では必備のものであることだけはいえる。全集ものでは日本文学が83.4%、外国文学が16.6%となっている。多い順にあげると現代日本文学全集が47名(27.8%)、

共 同 研 究

ロ 本代は小遣の何%か

学年	0~20	21~50	51~	不明	計
中一男	15	19	3	13	50
女	11	13	0	29	53
中二男	8	27	5	19	59
女	12	13	5	16	46
中三男	9	12	10	18	49
女	9	20	5	14	48
高一男	9	20	8	17	57
女	9	15	4	12	40
高二男	9	28	14	12	62
女	6	11	1	14	32
高三男	4	10	11	13	37
女	2	9	2	11	24
合計	101	200	68	188	557

世界文学全集23名 (13.6%), 漱石全集26名 (15.4%), 芥川竜之介 11名 (6.5%), 島崎藤村 11名 (6.5%), 志賀直哉6名 (3.5%), 森鷗外5名 (2.9%), 山本有三4名 (2.4%), 源氏物語4名 (2.4%) となっている。これは後述する読書傾向とも関連があるものと思われる。

4. 読書の方法

イ 中学下級学年では9冊以上が多く大変多読である。次に3冊以下、ついで4・5冊という順である。概して多く読む者と少く読む者との差が大きく、中間の者は少いように思われる。

中学の上級から高校へかけて、上級に進むほど読書冊数は少くなる傾向を示し、3冊以下が過半数をしめ、多くても5冊止り、9冊以上も読む者は余程特別な少数者に限られるようになる。これは読む書物の種類にも関係があり、又精読するものとも思われる。更に勉強に身を入れるものと思われる。

イ ひと月に読む本の平均冊数

学 年	中 1		中 2		中 3		合計	%	高 1		高 2		高 3		合計	%
	男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女		
0~3冊	14	17	13	12	27	22	105	33.3	33	24	32	15	22	16	142	56.5
4~5冊	12	9	14	14	10	11	70	22.1	11	9	13	8	5	2	48	19.1
6~8冊	3	0	10	14	7	3	37	11.8	3	2	3	5	0	0	13	5.2
9冊以上	18	13	19	13	1	7	71	22.5	3	1	5	0	1	1	11	4.4
不 明	3	14	3	3	4	5	32	10.0	7	4	9	4	9	5	38	15.0
	計 315								計 252							

ロ いつ読むか

学 年	中 1		中 2		中 3		合計	%	高 1		高 2		高 3		合計	%
	男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女		
い つ で も	17	27	32	30	18	20	144	43.4	15	20	20	17	8	5	85	32.0
と き ど き	22	20	19	12	25	29	127	38.2	30	12	35	12	18	18	125	47.0
日 曜 だ け	7	5	6	1	2	5	26	7.8	5	3	4	1	1	0	14	5.0
長 い 休 の と き	9	7	3	0	5	4	28	8.5	5	6	6	4	1	5	27	10.0
ほ と ん ど よ ま な い	0	2	1	2	2	0	7	2.1	2	2	1	1	6	1	13	5.0
	計 332								計 264							

本校生徒の読書傾向とその動態

ハ どこで読むか

学 年	中 1		中 2		中 3		合計	%	高 1		高 2		高 3		合計	%	
	男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女			
学 校 で	5	10	18	18	14	17	82	17.8	12	14	11	15	4	2	58	16.6	
家 で	50	50	59	37	42	43	281	61.0	50	35	59	17	28	23	212	60.9	
電 車 の 中 で	11	9	20	11	10	14	75	16.2	7	12	14	16	7	8	64	18.8	
そ の 他	3	5	5	3	5	2	23	5.0	2	1	2	3	5	1	14	4.0	
計								461	計								348

ニ 読んだあとどうするか

学 年	中 1		中 2		中 3		合計	%	高 1		高 2		高 3		合計	%	
	男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女			
読書ノートをつける	5	5	5	8	4	5	32	9.0	3	1	2	6	1	1	14	4.8	
感想を友だちと話しあう	5	23	8	10	9	15	70	19.0	3	12	11	11	3	5	45	15.5	
感想を家の人と話しあう	7	18	5	8	6	9	53	15.0	5	5	2	2	1	6	21	7.3	
日記に書くことがある	7	7	8	12	7	17	58	15.0	6	14	14	15	11	8	68	23.2	
別になにもしない	29	16	38	16	33	20	152	42.0	41	19	37	13	20	12	142	49.0	
計								365	計								290

ロ 中学下級では「いつでも」が多く、「ときたま」がこれにつぐ。中学上級と高校は「ときたま」が多く、「いつでも」がこれにつぐ。これはイの調査と相通ずる傾向を示している。

ハ 全般を通じて落ち着いた家で読むものが圧倒的多数をしめる。学校では意外に少なく、電車の中とはほぼ同数である。こゝでは学校ではどんな書物を、電車の中では何をと分けた方がよかった。

ニ 読後別に何もしないものが非常に多い。こ

の傾向は中学よりも高校において著しいが、男女の相違はなお一層明瞭である。女子は男子よりも読書の「あとあじ」に愛着をもち、大切にするように思われる。又感想を話し合うのに家の人とよりも友達の方が多く、この傾向が中学よりも高校にやゝ著しいのも興味あることであろう。こゝではどんな種類のものをと指定した方がよかったと思われる。

5. 書籍の入手方法

学 年	中 学						計	%	高 校						計	%	
	男	1女	男	2女	男	3女			男	1女	男	2女	男	3女			
イ 自 分 で 買 っ た	25	27	33	26	41	37	189	26.6	48	29	52	24	32	22	207	35.6	
ロ 家の人に買ってもらう	17	22	12	18	10	15	94	13.2	5	9	4	5	4	8	35	6.1	
ハ 家にあるものを読む	17	13	18	23	21	18	110	15.7	20	18	13	11	9	11	82	14.3	
ニ 学校図書を借りる	24	27	47	37	26	33	194	27.3	28	27	41	30	7	6	139	24.2	
ホ 一般図書館で借りる	2	1	7	0	1	3	20	2.0	3	3	8	0	6	0	20	3.5	
ヘ 貸本屋で借りる	4	2	4	1	6	3	20	2.8	9	3	2	0	0	1	15	2.6	
ト 友だちから借りる	9	17	12	9	17	26	90	12.6	4	22	16	17	6	12	77	13.4	
計								711	計								575

中学では全体を通してみると、イ「自分で買う」ニ「学校図書を借りる」が他に比べて断然多い。中でも中二のニは他学年よりかなり上廻っており学校図書館の利用率の最高を示している。ト「友だちから借りる」は中三が中一、中二より上廻り中でも女子にそれが顕著である。一般図書館利用はほとんどなく、貸本屋の利用は男子に少数みられる。

高校ではやはりイ、ニが多いが、高三にはニがあまりない。高二は中二と同じような傾向である。全学年を通じて女子に「友だちから借りる」が多い。学校図書館の利用は全国的にみると非常に多い例である。

### 6. 読書傾向

中学は高校に比べると多方面にわたっている。

学 年	中 学						計	%	高 校						計	%								
	男1女	男2女	男3女	男1女	男2女	男3女			男1女	男2女	男3女													
イ 人生, 宗教, 哲学	6	6	0	5	12	9	38	3.8	8	6	12	10	11	6	53	10.3								
ロ 歴史, 地理	23	17	26	17	7	8	98	14.0	10	2	7	3	20	4	46	8.9								
ハ 伝 記	21	26	15	15	19	25	121	17.8	15	9	4	2	5	3	38	7.3								
ニ 政治, 経済	3	3	5	2	10	3	26	3.7	7	0	8	3	4	0	22	4.2								
ホ 自 然 科 学	21	16	27	6	18	6	94	13.8	13	2	18	1	10	3	47	9.2								
ヘ 家事, 料理, 手芸	0	3	0	5	2	3	13	1.9	1	5	6	2	0	2	16	3.1								
ト 芸 術	5	5	2	7	4	14	37	5.5	12	11	12	6	11	5	67	13.0								
チ ス ポ ー ツ	14	2	10	3	16	10	55	8.1	6	3	8	2	8	4	31	6.1								
リ こ と ば	1	0	1	1	2	2	7	1.0	1	0	1	1	0	0	3	0.5								
ヌ 文 学	17	22	28	40	39	41	187	27.7	35	39	48	30	20	18	190	37.1								
計											676		計											513

なんとといっても文学への親しみの度がたかい。次に歴史、地理、伝記が多く、男子が自然科学が好きであるのに女子はだんだん減少し逆に芸術に眼を開くようになる。

高校でももちろん文学が圧倒的である。中学に比べて芸術への関心、人生、哲学、宗教に関心を

もつようになる。これは全国的な傾向でもある。

### 7. 書籍撰択の動機

中学では全学年を通して「実物を見て」が多いのが目につく。中一では「家の人にきいて」がそれにつき、中二、中三では「友だちからきいて」

学 年	中 学						計	%	高 校						計	%								
	男1女	男2女	男3女	男1女	男2女	男3女			男1女	男2女	男3女													
イ 先生にきいて	5	7	4	11	16	17	60	11.6	9	13	21	12	6	6	67	14.3								
ロ 家の人にきいて	11	21	2	10	9	13	66	12.8	3	7	4	4	1	3	22	4.7								
ハ 友だちからきいて	5	9	13	16	18	24	85	16.5	6	21	24	20	11	10	92	19.6								
ニ 批評をよんで	7	18	6	22	13	22	88	17.1	17	18	27	13	12	11	98	21.0								
ホ 広告をみて	8	6	6	2	10	9	41	7.9	9	4	17	4	6	7	47	1.0								
ヘ 実物を見て	31	32	14	35	43	20	175	34.0	21	21	47	21	20	13	143	30.5								
計											515		計											469

が多い。又「批評を読んで」が女子において比較的多いのが目につく。

高校においても「実物を見て」が断然多く、ついで「批評を読んで」「友だちからきいて」となっている。「家の人にきいて」はごく少くなっており自主性が高まっていることを示す。広告から受ける動機も少いようである。全国的な傾向は広告—友人—先生—家人となっているが、本校ではやゝ違った傾向を示している。

## 8. 最近感銘を受けた書物

調査人員が少いのではっきりした傾向とはいえないが全国的な傾向を本校でも示していることはいえるし、又それにプラスする書物があるようである。1名2名というのが多いので表は略する。

山岡寛章氏の「中学生の読書」によると中学生の好むものとして、「二十四の瞳」、石川啄木、夏目漱石、志賀直哉、島崎藤村、芥川竜之介のもの「ロビンソンクルーソー漂流記」「ガリバー旅行記」「トムソーヤの冒険」「宝島」、女子ではその他「家なき子」「アルプスの山の乙女」、男子ではその他「あゝ無情」「ドンキホーテ」「三銃士」をあげ、少いものに川端康成、堀辰雄、坪田譲治、小川未明のもの、「次郎物語」「グリム童話」をあげている。本校の中学では多い方のものは勿論、少いとされている坪田譲治、堀辰雄のもの「次郎物語」も相当に読み、更に「アンネの日記」その他の外国の作品を好んでいてやゝ程度の高いことを示している。

細かくみると、中一男子は読書の傾向がまだはっきり出ない。二、三年となるにつれてはっきりした傾向が出てくる。これは精神生活の発展を物語るものであろう。特に一年と二年のちがいはとみると、二年という学年は男子にとっては一つの分水嶺なのではないかと思われる。

それに対して女子がすでに一年からはっきりした傾向を示しているようである。中でも中三男子で上位にある「ジーンシア」「野菊の墓」が中一女子で上位にあるのは注意してもよいと思われる。

又男子に比べて女子が二年三年は「アンネの日記」「車輪の下」などが上位を占めているのも、

女子の精神年令の一般的高さを物語るものといえよう。

男子も高校になるとはっきりした傾向を示すようになる。高三は受験を控えてか数が少い。高校の男女差をながめて気づくのは男子に比して女子が「友情」「女の一生」「こころ」とかやゝ内面的につつまんだものを要求しているようなものを選んでいことと、男子が女子にみられない「空想より科学への社会主義の発展」を読んでいることである。

過日毎日新聞社が高校生読書調査をしてその結果を発表していたが、本校でも大体そのような傾向であるが、「太陽の季節」が一名しかなかった。毎日新聞によると、男子1「太陽の季節」2「三四郎」3「次郎物語」4「坊っちゃん」5「野菊の墓」6「友情」7「心」8「新平家」9「大地」10「草枕」、女子では1「次郎物語」2「友情」3「坊っちゃん」4「大地」5「野菊の墓」6「心」7「赤毛のアン」8「狭き門」9「波」10「風と共に去りぬ」9「三四郎」、10「愛と死」10「真実一路」男女をあわせると1「次郎物語」2「友情」3「坊っちゃん」4「野菊の墓」5「三四郎」6「太陽の季節」7「大地」8「心」9「狭き門」10「波」となっている。

## 6. 好きな作家

イ 中学男子では藤村、啄木、漱石、有三、有島武郎といった古典的作家に、坪田譲治、吉川英治、それに江戸川乱歩、コナンドイルが上位で5名入っている。3年ではじめてヘッセ、モーパッサンが上位に入っているのは注目すべきことである。

中学女子では有島、藤村、啄木、有三は男子と同じであるが、その他に与謝野晶子、高村光太郎、芥川、下村湖人、壺井栄、北原白秋、ジイドが登場し、坪田、吉川、江戸川、コナンドイルがなくなっている。又男子ではサトーハチロー、ルブラン、マークトローエンなどが見られるのに、女子ではみられず、その代りに女子のみにみえるものとして村岡花子、山村暮鳥、野上弥生子、カールブッセ、堀辰雄などがみられる。なお中二三女子でゲーテ、中三女子でボードレル、宮本百合子、中原中也が登場していることも注目すべきことと

思われる。

ロ 高校男子では漱石、芥川、藤村、有三は中学と同じであるがそれに加えて、鷗外、武者小路白秋が上位に入り、更にヘッセ、ロマンローラン、トルストイが入ってくるのは高校生の精神的発展を示すものであろう。

又川端康成、堀辰雄、石坂洋次郎がつづいて上位を占めること、更にマルタンデュガール、スタンダール、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、ジョーロフがみられるのも、又日本作家で椎名麟三、伊藤整、小林秀雄、倉田百三更に五味康祐の名もみられるのも高校生らしい特徴といえよう。

高校女子では有三、藤村、漱石などが他と同じくみられるが、それらの占める位置がやゝ下りそのかわりに川端更に太幸治が上位を占めていること更にロマンローラン、ヘッセ、ツルゲーネフ、ジイドが上位に入ってきていることが注目される。とりわけ高二三女子でそれぞれ中島敦、山村暮鳥、八木重吉、亀井勝一郎の名がみられるのも彼女たちらしい特徴がうかがえるものといえようか。

毎日新聞によれば次の通りだが本校では男子が大体同じで女子がやゝ異なるように思う。1 漱石、2 有三、3 武者小路、4 芥川、5 石坂、6 藤村、7 吉川、8 志賀、9 康成、10 トルストイ

### 10. 最近買った書物

イ 第一に学習（受験）雑誌が上位を占める。しかし中一では男女とも多いのに中二になると女子がへりはじめ、その傾向が大体高校までつづいてゆく。高校生が男女とも減少しているのは注目に値するし特に高三が男女とも一であるのは、

ロ 中学では伝記が好まれるようである。

ハ 中学一二で自然科学が多く（特に男子）、この傾向は高校までつづいていること、それに対して社会関係が中二三で急にふえていることも又

注目すべき現象であろう。それに関連して工学が中一二で多いのも注目される。理科数学の学習参考書の傾向も又同じである。

ニ 中一から中二三と芸術関係がふえているのも注意してよかろう。

ホ しかし各学年を通じて最も多いのはなんといっても文学の部である。その中で注意すべき現象として①中一では男子に比して女子が圧倒的に多い。しかし男子は日本文学が多いのに女子では西洋文学が多い。②男女の差は男子の成長によりちゞまってゆく。しかし男子日本文学、女子西洋文学という傾向は中学を通じて変らない。高一女子で日本文学が多くなり又高二男子では西洋文学が多くなり高三では男女とも日本文学のみという現象はどういうことなのであろうか。③又中学一年で推理探偵小説、少女小説が多いが、二年三年と減少し、高校にいくと全くみられないのも彼等の精神的発達を物語るものであろう。

### III 結 び

前にも述べたように完全な調査でないので断定はできないが少くとも次のことを感じた次第である。文学作品を生徒がいかにか好むかということ、つまり文学のもつ重要な意味を再認識するわけである。中学ではまだばらばらの読書傾向であり、高校へと進むにつれて一定の傾向が出てくる。又読書の動機に先生にすゝめられてが相当数を占めている。このことから教師の適切な指導が是非必要である。又われわれ教師の考えるものと生徒の要求する書物にぐいちがいのあることも知った。図書館としてもできるだけ生徒の欲するものは満足させてやらねばならない。今まで資料設備の充実に力を注いできたわが校の図書館もこれから読書指導その他の運用面に前進すべき時期であることを痛感する次第である。